

児童発達支援事業所における自己評価結果

公表:令和 6年 2月26日

事業所名 セカンドプレイス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		静と動の部屋を分けている。	
	2 職員の配置数は適切である	6	1	勤務表を組む時点で確認している。	急な職員の休みで配置が少ない時もある。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		室内バリアフリー(トイレ含む)	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		活動部屋をシンプルにしている。 ・発達特性に合わせて、部屋の空間を区切る等の変更を随時行っている。	定期的な大掃除を計画しより清潔な環境下で支援できるよう工夫していく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		セカンドプレイスのホームページを刷新し明るく見やすいものになっている。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		・いろいろな研修が行われている。 ・スキルアップ研修、交換研修、合同研修、キャリアアップ研修 ・定期的に職員研修をしている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4	JSIを実施している。	・アセスメントの再検討
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1		
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	6	1		チーム内でばらつきがある為、具体的な話あいと議事録をとり周知を徹底する。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		固定化しないように工夫している。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	6	1		
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1	日誌を活用し漏れがある際は声を掛け合って確認するようにしている。	・情報共有に漏れがある。 ・朝一の支援では、送迎にいく関係もあり到着と同時に支援が開始することもある為、活動前の打ち合わせが不十分な事もある。そのため、朝一のコマの前日打ち合わせ等工
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1		当日は難しいが、昼に話し合いを設け振り返ったり、記録して確認している。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		様々な職種の日線で記録を行っている。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7				

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	保護者との情報共有が頻繁に行っているスタッフが可能な限り担当者会議やモニタリングに参加できるように選定している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	2		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	3		・今後交流の機会を設けていきたい。 ・特性による難しさと個別で区切られた時間の関係上難しさもある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	3	始良市グループ会議の参加	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		報告会を実施している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	2	・必要な情報取集を送迎時、相談支援時行っている。	・ペアレントトレーニングへの参加ができていない現状がある。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	契約時に説明を実施。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		契約時に説明を実施。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	4	年に2回のイベント実施。親子イベント企画を開催できた。	・需要があれば今後計画していきたい。 ・イベントにて保護者参加型の実施も行っているため負担にならない範囲で活動を広げ巻き込んでいけるようにしたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1	・連絡体制はLINEを活用している。 ・インスタグラムを使用し活動や情報発信を行っている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	2		

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		半年に1回の避難訓練を実施。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	1	・フェイスシートの確認	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1	・フェイスシートにてアレルギーの有無を確認している。 ・飲み物は基本持参の水筒にて行う。	フェイスシートにてアレルギーの有無を確認している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		ヒヤリハットを作成し情報共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	1	・契約時に説明と理解の促しを行っている。	